

荒尾県体開催される



“小岱の緑に翔(と)ぼう荒尾県体”をキャッチフレーズに第35回県民体育祭は、21郡市7,520人の役員、選手が参加して9月20日開幕、同市運動公園を主会場に三日間の日程で21の採点競技とオープン10競技に熱戦を繰り広げた。

【総合】①熊本市②八代市③人吉市④荒尾市⑤阿蘇郡

【女子総合】①八代市②阿蘇郡③下益城郡④宇生市⑤熊本市

必要があります。

三、サービスの向上

観光の快適性(アメニティ)に対する観光客の要求は、物的なものから精神的なものまで拡大し、心のこもったサービスが求められていることから、観光サービスのあり方について十分な知識、技能、感覚を身につけておく必要がありますので、経営者、管理者はもとより、一般従業員、料理人などへの研修を充実させるとともに、接客コンテストの開催やサービスモデル地区の設定などを促進していくことが大切です。

また、観光地における火災、食中毒遊戯施設の事故などが発生しないように関係者の自覚を促すとともに、海や山での遭難防止や歓楽地における安全性の確保について関係行政機関とも連絡をとって指導の万全を図っていかなければなりません。

四、美化清掃の推進

観光客を快よく迎えるためには、ごみ処理の問題は、どうしても解決しなければならぬ大きな問題です。そこで、従来から進めています国立公園清掃活動事業や景勝地清掃地美化事業等の一層の推進に加え、駅、バス

センター、ドライブインなどのごみ持ち帰り運動や名勝地のごみ箱、くずかごの適正配置及び投棄場所の表示等を行い、また観光地モデル地区の設定を図り、さらに観光地ごとの地域団体の参加を求め、美化清掃が主体的に行われるように進めていく必要があります。

五、観光情報の整備と活用

『観光地づくりの推進方向』

常に新鮮で正確な観光情報の収集及び提供ができるようにするため、県内の主要観光地において観光情報機関の充実を図るとともに、県内の観光情報機関をコントロールする中央情報センターの整備を進め、また、関東、中京、関西等の適切な観光需要を把握するための現地観光情報網の整備を促進していく必要があります。

このまま申し述べましたような色々な施策を実施していくためには、多額の資金や有能な人材、十分に活動できる推進組織、さらには県民ひとりひとりの参加を要し、様々な形での県民みなさまの取り組みがなければなりません。単に、県や市町村など公共に依存することなく、それぞれが観光レクリエーション事業の担い手として責任ある行動をとってはじめて成果があがるものです。

観光振興の推進に当たって、公共と民間の分担関係についてみると、公共においては、観光施設を整備し観光客が快適に滞在できるよう基盤整備を中心とした施設整備を実施すること、観光関係団

体の協調を促進し総合的な対外宣伝を企画することなどの業務を担当し、一方民間においては、企業活動として交通、宿泊、レクリエーション娯楽、飲食、販売サービス、宣伝など経営部門を担当するのは勿論ですが、それに加えて、県内に観光客を受け入れるに当たり、接遇関係の従業員の研修を企画実施することともに、特に、観光の管理・演出については、その性格上民間が積極的に取り組む必要があります。本県観光産業の振興は、ひとえに観光事業を直接担当する民間の創意工夫にまつところが大きいのです。

の公共機関との緊密な連絡、調整をとっていくこととしますが、特に、民間エネルギーの活用が円滑に行われ、しかもそれが単に観光に直接携わるものだけではなく、広く地域住民を含め、地域づくり、町づくりの一環として、自主的な推進組織の結成をなし、自らの手による観光振興のための具体的な計画・実施がなされるように指導、助言を強めていくこととします。

本県の観光の振興は、県民が総力を結集し、自分達の観光地は自分達で作るといった認識に立ってこそ始まるものであり、そこから活力に充ちた、そして調和のとれた、さらにそこにはかない魅力をもった観光地が作られるものです。観光の発展は、ひとえに県民みなさまの双肩にかかっている訳でございますので、以上の点につきまして関係者の真剣な討議に付され各種施策が今後十年程度を目標に具体的に実現されていくことを期待いたしますとともに、なお新たな発想と提案がこれからは絶えることなく出され、自らの責任によってひとつひとつ実現に移されていくことを強く願ってやみません。